

4 経営計画（平成 21 年度～25 年度）の取組状況

(1) 主な取組状況

平成 21 年度から 23 年度上半期における主な取組状況は、次のとおりです。
 (20 年度以前で関連する主要な取組は、括弧書きで併記しています。)

取組方針	取組方針	主な取組状況と今後の取組み
○ 医療機能の強化		
I 医療提供体制の強化	救急医療機能の強化	21 年度 救急外来の体制強化, トリアージナースの設置 脳・心臓系当直の設置 22 年度 救急外来部門の設置, リーダー当直医の導入 《今後》 救急外来の拡張 (H23), 血管撮影装置の設置 (H24)
	母子・周産期医療機能の強化	(17 年度 小児感覚器科の設置) (18 年度 小児腎臓科の設置) (19 年度 生殖医療科の設置) (20 年度 成育医療センター開設(H21. 3)) 21 年度 分娩セミオープンシステム開始 22 年度 助産外来の開設
	がん医療機能の強化	(16 年度 緩和ケア支援センター開所) (18 年度 臨床腫瘍科の設置, がん診療連携拠点病院指定) 21 年度 乳腺精密検査外来の設置 がんサロンの実施, 緩和ケアチームの確立 22 年度 5 大がん地域連携バス推進 (説明会実施 2 回)
	役割を踏まえた機能の強化	21 年度 亜急性期病床の設置【安芸津】(H22～10→8 床) 22 年度 訪問看護の実施【安芸津】 《今後》 訪問リハの実施【安芸津】(H23～)
II 医療の質の向上	医療の質の向上	(19 年度 地域医療支援病院に指定) (20 年度 (財)日本医療機能評価機構の認定更新) (20 年度 電子カルテシステム導入) 21 年度 MSW(メディカル・ソーシャル・ワーカー)の増員 地域医療連携室の設置【安芸津】 DPC 解析ツールの導入し, ベンチマーク分析・検討会開始 22 年度 臨床評価指標部会の設置, 臨床評価指標(クリニカルインディケイター)の作成 ふれあいサロン, ほっと安心ネットワーク参加【安芸津】 《今後》 地域連携システムの稼動 (H23) 電子カルテシステムの導入【安芸津】(H23)
	医療安全の確保	21 年度 病院安全管理推進員の配置 医療安全対策マニュアルの改訂 新型インフルエンザ院内総括班会議(23 回), インフルエンザ対応マニュアル作成 22 年度 暴言暴力対応マニュアル作成
○ 人材育成・派遣機能の強化		
III 医師の確保・育成機能の強化		(20 年度 メディカルクラークの配置(7 名→H21:14 名→H23:47 名)) 21 年度 後期臨床研修医の常勤化(任期付) 後期臨床研修プログラムの充実(全国公募) 海外長期研修制度等の創設 医療従事者待機宿舎の整備 《今後》 初期臨床研修の地域医療研修受入【安芸津】(H23)
IV 看護師等の確保・育成機能の強化		認定・専門看護師, 専門薬剤師等を計画的に養成 21 年度 認定看護師 5 名, 認定検査技師 4 名養成 22 年度 認定看護師 6 名, 認定薬剤師 1 名, 治療専門放射線技師 2 名, 認定検査技師 2 名養成
V 派遣機能の強化		派遣実績 ○医師派遣～安芸津病院(小児), 神石高原町立病院(呼内, 整形), 尾道総合病院(小外) ○代診医派遣～瀬戸田診療所, 安芸太田病院, 大和診療所 東日本大震災への支援 ○DMAT～震災当日に出動し, 8 名が病院支援活動 (H22. 3. 11～3. 15) ○医療支援～医療救護班を 3 班派遣 (3/23～7/1 の広島県医療チーム 24 班中)。

○外部評価委員会の設置（経営計画の取組状況を点検・評価）

22年度の開催状況

- 第1回 平成22年7月5日 於：県立広島病院
 第2回 平成22年10月4日 於：県立安芸津病院
 第3回 平成23年3月15日 於：広島県庁

平成21年度の取組の評価表（総括表）

広島病院

番号	取組方針	自己評価	委員会評価
1 政策医療機能			
1	救急機能の強化	◎	◎
2	周産期医療提供体制の強化	◎	◎
3	がん診療機能の強化	○	○
2 医療人材の育成・派遣機能			
4	人材の確保・教育・派遣	○	○
5	医療の安全と質の向上	○	○
3 患者サービスの向上と経営の効率化			
6	患者サービスの向上	◎	◎
7	経営の効率化	増収対策	◎
8		費用合理化対策	◎
9		経営機能の強化	○
4 連携強化			
10	地域連携状況等	○	○
11	（2病院）協力状況	○	△
5 決算、目標指標			
12	収支改善、目標指標	◎	◎
総合評価			○

○ 患者サービスの向上と経営の効率化		
VI 患者サービスの向上	利便性の向上	21年度 個室の増設(5室) 院内コンビニエンスストアの開設 (H21. 12. 1～) クレジットカード払いの導入 (H21. 12. 24～) 22年度 個室改修(22室), TV地デジ化, 外来待合椅子更新 希望者に検査結果呼出用ポケベルを交付
	広報の充実	21年度 地域巡回講演会の実施 ～以後継続 医療講演会の充実【安芸津】 ～以後継続
	患者ニーズの把握	アンケート～退院患者, 外来患者にアンケートを実施。 患者意見箱～常設し, 対応状況を閲覧可能にしている。 22年度 安芸津病院を支援する会設立(H22. 10. 6), 院内会議～住民参加開始。
VII 増収対策	医業収益の増加策	(18年度 診療報酬包括払制度(DPC)の導入) (19年度 7対1看護, 地域医療支援病院指定) (20年度 10対1看護【安芸津】) 21年度 コンサルティング会社の活用導入(DPC分析, 手術室効率化, H22 地域連携) 22年度 ベッドコントロールチーム上げ
	患者負担の適正化	使用料・手数料について, 毎年, 新設や改定を実施 21年度 分べん料の改定(18万円→21万円)
	診療報酬請求の改善	21年度 コンサルティング会社によるレセプト診断【各病院】 院内診療報酬改定説明会の実施
	未収金対策	21年度 債権回収事務の委託範囲を拡大
VIII 費用合理化対策	材料費・備品購入費の削減	(20年度 コンサルティング会社の導入(価格見直し, 交渉同席)) 21年度 診療材料ABC分析, 医薬品共同購入検討 22年度 2病院医薬品購入一体化。 1メーカー1卸化による医薬品購入事務の見直し 《今後》SPDシステムの導入(H23準備, H24実施)
	経費の見直し	(19年度 高金利の企業債の繰上償還を実施(～21年度)) 22年度 ME(臨床工学士)安芸津病院へ協力
IX 医療機器の整備		(18年度 3Dリニアック(放射線治療機器)の稼働) 21年度 MR I (3テスラ)を更新 22年度 電子カルテの導入検討【安芸津】 《今後》血管撮影装置(アンギオ)整備(H23, 24)
X 医療環境への柔軟な対応	経営機能の強化	各病院で, 目標数値を設定。院内で経営情報等の共有化。 21年度 病院経営戦略会議の設置・運営 運営管理担当の設置(H23～経営企画担当) 職員提案制度の導入 22年度 外部評価委員会設置(3回), H21評価取りまとめ(計画のPDCAサイクル) 事業仕分け, 成果の検証の実施 民間ベストプラクティス病院等の調査・分析
	機動的な予算執行	22年度 入札等の早期執行実施
	弾力的な人材採用	21年度 後期臨床研修医の常勤化(任期付) 21年度 メディカルテックの配置～再掲～(H23:増員47名)
	弾力的な病床運営	21年度 広島病院を50床削減(750床→700床)(H21. 4. 1) 安芸津病院を50床休床(150床→100床)(H21. 4. 1) 22年度 安芸津病院を25床削減, 休床25床(H22. 9. 1) 診療科優先病床を廃止し, 基本病床に転換。 ※各病院において, 随時, 病床運営の見直しを実施
XI	XI 職員の経営参画意識の醸成	21年度 経営戦略会議(管理者, 院長等で構成)の設置・運営 22年度 病院経営マネジメント勉強会の実施(全6回) 23年度 目標管理制度の導入(県庁全体)
○ その他		
地元移管		21年度 瀬戸田病院を尾道市に移管(H21. 4. 1) 神石三和病院を神石高原町に移管(H21. 4. 1)
経営健全化		22年度 一般会計長期借入金金の完済(H22. 4. 1:12億円)

(注)主な取組状況において, 病院名を記載していないものは広島病院の取組み

○外部評価委員会の設置（経営計画の取組状況を点検・評価）

22年度の開催状況

- 第1回 平成22年7月5日 於：県立広島病院
 第2回 平成22年10月4日 於：県立安芸津病院
 第3回 平成23年3月15日 於：広島県庁

平成21年度の取組の評価表（総括表）

安芸津病院

番号	取組方針	自己評価	委員会評価
1 政策医療機能			
1	安芸津病院の機能検討	○	△
2	政策医療の実施	○	○
2 医療人材の育成・派遣機能			
3	人材の確保・教育・派遣	△	△
4	医療の安全と質の向上	○	△
3 患者サービスの向上と経営の効率化			
5	患者サービスの向上	◎	◎
6	増収対策	○	○
7	経営の効率化 費用合理化対策	○	○
8	経営機能の強化	○	○
4 連携強化			
9	（2病院）協力状況	○	△
5 決算、目標指標			
10	収支改善、目標指標	△	△
総合評価			△

(2) 目標指標の達成状況

新たに設定した目標指標の達成状況は、次のとおりです。

区分	病院	指標	21年度	22年度
●医療機能の確保に係る指標				
病床利用率	広島	85%以上	83.7%	◎ 85.3%
	安芸津	90%以上	78.6%	81.4%
患者紹介率・逆紹介率	広島	65%以上	◎ 紹介率65.7% ◎ 逆紹介率 70.7%	◎ 紹介率69.7% ◎ 逆紹介率 70.7%
救急患者受入数	広島	1日平均16人以上 〔平成19年度実績 14.5人の10%増〕	◎ 1日平均17.2人	◎ 1日平均19.1人
NICU・GCU 患者受入数	広島	年間8,200人以上 〔概ね、平成19年度実績 8,207人を維持〕	◎ 年間8,422人	◎ 年間8,321人
がん登録件数	広島	年間1,000件以上 〔平成19年実績 878件の10%程度増〕	◎ 年間1,721件	◎ 年間1,908件
前期臨床研修医受入数	広島	20名以上	◎ 20名	◎ 20名
後期臨床研修医受入数	広島	50名以上	31名	34名
認定・専門看護師の養成	共同	毎年5名以上	◎ 5名	◎ 6名
●財務内容の改善に係る指標				
病院事業全体		計画期間内に経常 収支黒字化を達成	経常赤字 (▲15百万円)	◎ 経常黒字 (+366百万円)
広島病院		経常収支を黒字化 (平成24年度)	◎ 経常黒字 (+271百万円)	◎ 経常黒字 (+554百万円)
安芸津病院		資金収支を黒字化 (平成25年度)	資金収支赤字 (▲247百万円)	資金収支赤字 (▲237百万円)

※目標達成した指標は、◎印を付している。

○前期臨床研修医マッチング状況

・広島県の状況

●過去4年間の状況

	平成22年度				平成21年度				平成20年度				平成19年度			
	募集定員	マッチ者数	マッチ率	空席数	募集定員	マッチ者数	マッチ率	空席数	募集定員	マッチ者数	マッチ率	空席数	募集定員	マッチ者数	マッチ率	空席数
広島県	187	153	82%	34	182	151	83%	31	226	139	62%	87	228	144	63%	84
対前年(増減数)	5	2	▲1%	3	▲44	12	+21%	▲56	▲2	▲5	▲2%	3				
対前年(増減率)	+3%	+1%		+10%	▲19%	+9%		▲64%	▲1%	▲3%		+4%				

	平成22年度				平成21年度				平成20年度				平成19年度			
	募集定員	マッチ者数	マッチ率	空席数	募集定員	マッチ者数	マッチ率	空席数	募集定員	マッチ者数	マッチ率	空席数	募集定員	マッチ者数	マッチ率	空席数
全国	10,692	7,998	75%	2,694	10,500	7,875	75%	2,625	11,292	7,858	70%	3,434	11,563	8,030	69%	3,533
対前年(増減数)	192	123	▲0%	69	▲792	17	+5%	▲809	▲271	▲172	+0%	▲99				
対前年(増減率)	+2%	+2%		+3%	▲7%	+0%		▲24%	▲2%	▲2%		▲3%				

・県立広島病院の状況（希望登録学生数が増加，フルマッチ継続）

	22年度			21年度			20年度		
	定員	マッチ者数	希望登録学生数	定員	マッチ者数	希望登録学生数	定員	マッチ者数	希望登録学生数
県立広島病院	10	10	38	10	10	36	10	10	35

○21年度から新たに作成し，全国公募した独自研修プログラムによる後期臨床研修医

複数ローテイト型プログラム

コース名	H22	H21
① オーダーメイド	2	1
② がん診療		
③ 成育医療	1	
④ 総合的救急		
⑤ 麻酔・全身管理		
⑥ 総合医養成		1
⑦ 脳・心臓血管救急診療		
⑧ 消化器総合		
⑨ 外科専門医修練		
⑩ 感染症診療		
合計	3	2

○認定看護師

(13名 23年4月現在)

領域	人	所属
感染管理	1	広島
救急看護	1	広島
緩和ケア	4	広島
がん性疼痛看護	1	広島
乳がん看護	1	広島
新生児集中ケア	1	広島
皮膚・排泄ケア	2	広島
摂食・嚥下障害看護	1	広島
集中ケア	1	安芸津

○専門看護師

(1名 23年4月現在)

領域	人	所属
小児看護	1	広島

5 県立病院の課題

(1) 県立病院の役割の明確化

我が国の医療を取り巻く環境は、めまぐるしく変化する医療制度や、全国的な医師不足の問題などにより、医療提供体制の維持が困難になる病院があるなど、非常に厳しい環境にあります。

こうした中、県立病院は、一医療機関としての役割とともに、高度医療や政策医療など不採算部門の医療及び医療人材の育成など、県内の医療水準の維持・向上に資する役割を果たしています。

医療を取り巻く環境は、今後とも一段と厳しさを増していくものと予想されますが、引き続き、県立病院として期待される役割の一層の発揮に努め、県民のニーズに即した医療を安定的・継続的に提供していく必要があります。

また、こうした県立病院としての役割は、県からの財政支援により支えられており、県民からの幅広い理解を得ることが不可欠です。

平成22年度に実施された「事業仕分け」や「事業成果の検証」においても、『政策医療における取組や成果の公表』や『県民の負担を明らかにすること』など、県民に対する説明責任の重要性が指摘されています。

県立病院が担っていく役割や成果、更にはこうした取組を支える一般会計からの繰入金について、積極的な情報発信を行い、県民からの幅広い理解を得て取組んでいく必要があります。

(2) 医療の質の向上

医療技術の急速な進歩に伴い、医療内容の高度化・専門化が進むとともに医療サービスに対する県民のニーズも、より多様化・高度化しています。

県立病院も、こうした多様化・高度化する医療ニーズや、めまぐるしく変化する医療環境に的確に対応しながら、県立病院が担うべき役割を踏まえた病院機能の充実強化や患者サービスの向上、臨床指標の公表、医療安全の確保、或いは、計画的な医療施設の整備など、医療提供体制の強化を図り、より医療の質を高めていく必要があります。

(3) 経営の健全化

県立病院が、自らの役割に基づき、県民に対して高度で良質な医療を継続的に提供し続けるためには、経営基盤を強化し、持続的・安定的に運営していくことが不可欠です。

広島県病院事業では、平成8年度以降、3度にわたって病院事業の運営指針となる中期計画を策定し、経営健全化に取り組んできました。

この間、診療報酬の度重なるマイナス改定など、極めて厳しい環境でしたが、様々な取組により、平成22年度には損益収支が黒字に転換しました。

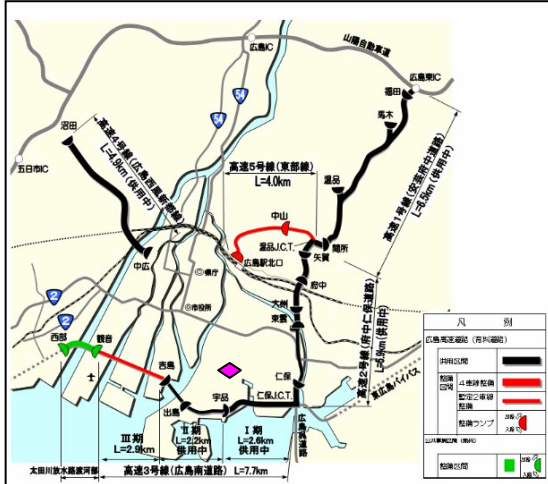
一方で、民間企業に準じた会計基準への移行が予定される中、必要な退職給与引当金が十分確保できていないなど、依然として対処すべき課題も残っています。

また近年は、公立病院に対する多額の財政支援に対して厳しい意見があることなど、公立病院の経営に対する視線も一層厳しくなっています。

公立病院を取り巻く経営環境の変化に適切に対応し、参考となる民間の効率的経営手法を積極的に取り入れながら、これまで以上に経営の透明性や説明責任の向上を図り、県民への「安心な暮らし」の実現に向け、経営の健全化に取り組んでいく必要があります。

○交通利便性の向上

「広島高速道路」



高規格幹線道路「東広島・呉自動車道」



○事業仕分け・議会による事業成果の検証

1 対象 県立広島病院 病院運営費（政策医療） 【985 百万円】（H22 当初予算ベース）
 【内訳：救命救急医療（586 百万円），成育医療（329 百万円），がん医療（70 百万円）】

2 実施時期

- (1) 広島県事業仕分け 平成22年9月19日（土）～21日（月）に，101事業を対象に実施。
- (2) 事業成果の検証 平成22年10月1日（金）（病院事業局分）

3 結果・主な意見

(1) 事業仕分け ・ 県実施（要改善）

不要	民間	国・広域	市町	県	
				要改善	現行どおり
0	0	0	0	5	1

- (主な意見)
- ・増収対策や経費削減の取組は，目標を設定し，県民へ公表するなど透明性を高めるとともに，県民の負担を明らかにする必要がある。
 - ・一般会計繰入金は，収益及び費用の目標を定め，これにより算出するなど算定方法を見直す必要があるのではないか。

(2) 事業成果の検証

- (主な意見)
- ・外部評価委員会の活用などにより，経営努力を行うとともに，県立広島病院が取り組んでいる救命救急医療や成育医療，がん医療について，その成果の公表に努める必要があるとの意見があった。

○過去の経営計画

計画期間	名称	策定年月
●平成 8 年度～平成 12 年度	病院事業経営健全化計画	平成 8 年 10 月
●平成 12 年度～平成 16 年度	新たな病院事業経営健全化計画	平成 12 年 4 月
●平成 17 年度～平成 21 年度	広島県病院事業経営計画	平成 17 年 3 月
〃 (中間見直し)	〃 (一部改定)	平成 20 年 3 月
●平成 21 年度～平成 25 年度	広島県病院事業経営計画 (現計画)	平成 21 年 3 月

Ⅲ 県立病院のあり方と方向性

1 県立病院が今後果たすべき役割、実現すべき姿

県立病院は、県が直接運営する病院にふさわしい、広域的な責任を果たす必要があります、本県においては、特に次の機能を担う必要があります。

(1) 政策医療機能

県立病院は、市町や他の医療機関との役割分担や連携を図りながら、政策医療分野（不採算分野）の機能を担うことが求められています。このことから、

- ア 救急医療（プライマリケアを除く）
- イ 高度医療（母子・周産期医療、がん医療など）
- ウ 災害医療（広域的な感染症対策を含む）

など、現在、県立病院が担っている医療を引き続き担っていくとともに、こうした政策医療をはじめとした良質な医療が提供できる体制を整備する必要があります。

(2) 医療人材の育成・派遣機能

県立病院は、県内医療機関のリーディングホスピタルとして、県内全域の医療水準の維持・向上を図る使命があります。

現在、医師不足が大きな問題となっており、広域的な観点から安定的な医療提供体制の構築を図るため、

- ア 本県の医療を担う人材の育成機関としての機能
（臨床研修指定病院としての医師育成機能も含む）
- イ 広域的な医師派遣の拠点機能

を担うことが、これまで以上に強く求められています。

○県立病院のあり方と方向性

・県立病院が今後果たすべき役割

22年度第3回外部評価委員会（平成23年3月15日）での意見を参考として修正。
根幹部分に変更なし。

・各病院の方向性

22年度第3回外部評価委員会（平成23年3月15日）での意見を参考として修正。

広島病院 ～ 変更なし。

安芸津病院 ～ 「地域に密着した医療の提供」と「地域医療を担う人材の育成」の意見が出された。

2 各病院の方向性

(1) 県立広島病院

広島病院は、県民の安心を確保するため、県内全域を視野に入れた高度急性期医療機能や東日本大震災のような大規模災害にも対応できる基幹災害拠点機能を効率的・効果的に県民に提供するとともに、これまで高度医療機能の集積を図ってきた「救急医療」、「母子・周産期医療」、「がん医療」の3分野の更なる機能強化を行っていきます。

また、県の基幹病院として、県内の医師を始めとする医療人材の不足を解決するため、医療人材の県内への定着促進、養成及び派遣機能の充実を図ります。

① 高度医療の充実

ア 救急医療機能の強化

広島病院の救命救急センターは、全県をエリアとする三次救急医療機関の指定を受け、他の病院では対応が困難な複数の診療科領域にわたる多発性外傷などの重篤な救急患者に24時間体制で高度な医療を提供するとともに、救命率を向上させるため、脳・心臓疾患の救急患者への24時間対応を強化します。また、ドクターヘリの事業における中心的役割を踏まえて、県が進める「ドクターヘリ」導入が早期に実現できるよう積極的に支援・協力します。

イ 母子・周産期医療機能の強化

平成21年3月に、母子総合医療センターを発展・改組して、次世代育成にかかる医療を一元的・継続的に提供する「成育医療センター」を開設し、新生児科と産科からなる周産期医療部門を中心に、生殖医療科、小児科、小児腎臓科、小児外科、小児感覚器科、婦人科等の連携により、母子に対する総合的なチーム医療を行っています。今後は、女性医師の短時間労働や助産外来の拡充などにより医師の負担軽減を図り、産科・小児科医の定着・確保に努めることで産科・小児科医の不足に対応するとともに、本県の母子・周産期医療の中心的役割を担う機能の充実を図ります。

ウ がん医療機能の強化

がんは、本県の死亡原因の第1位となっており、今後も高齢化の進展に伴いがん患者数の増加が予想されています。「ひろしま未来チャレンジビジョン」に掲げる「がん対策日本一」への取り組みと協働し、がん医療機能の強化を図り、がんによる死亡者の減少やがん患者や家族の苦痛の軽減、療養生活の質の向上に貢献します。

今後は、「手術療法」、「化学療法」、「放射線療法」のがん治療3分野を充実させるとともに、「緩和ケア」などの当院の特色を生かした総合的な「がん医療」の推進を図ります。

また、がん治療の各分野において、がん患者に負担の少ない「低侵襲治療」を積極的に推進するとともに、地域医療ネットワークを利用したがん地域連携パスを推進し、がん患者が地域の医療機関と一体となり医療提供が受けられる体制を整備します。

エ その他

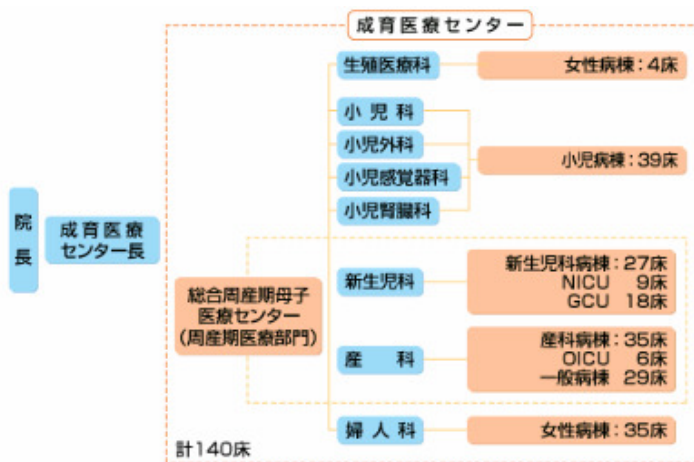
高齢化社会の進展や生活習慣病の増加を背景として、今後増加が見込まれる循環器系疾患や糖尿病などへの対応や、県内で有数の実績を持つ腎臓移植（生体腎移植・献腎移植）技術など、広島病院の強みを活かした機能強化を検討していきます。

○救命救急センターの機能強化

区 分		概算事業費	H 2 3 (予算額)		H 2 4
救急外来スペースの拡張工事		156 百万円	実施設計	4,679 千円	工 事
血管撮影装置の増設	設置室の工事	115 百万円	実施設計・工事	115,021 千円	
	血管撮影装置の設置	305 百万円	機種選定・発注	(※)	据付工事
計		576 百万円	119,700 千円		

(※) 債務負担行為 305,000 千円 (血管撮影装置の購入)

○成育医療センター



○全国の死亡原因の順位と死亡者数

死因 順位	昭和55年 (1980)		平成2年 (1990)		12年 (2000)		21年 (2009)		22年 (2010)	
	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数
第1位	脳血管疾患	162 317	悪性新生物	217 413	悪性新生物	295 484	悪性新生物	344 105	悪性新生物	352 000
第2位	悪性新生物	161 764	心疾患	165 478	心疾患	146 741	心疾患	180 745	心疾患	189 000
第3位	心疾患	123 505	脳血管疾患	121 944	脳血管疾患	132 529	脳血管疾患	122 350	脳血管疾患	123 000

注：平成21年までは確定数、平成22年は推計数である。

○広島県における死亡原因の順位と構成比

(単位: %)

	1		2		3		4		5	
全 国	悪性新生物	30.1	心 疾 患	15.8	脳血管疾患	10.7	肺 炎	9.8	老 衰	3.4
34 広 島	悪性新生物	28.7	心 疾 患	16.4	肺 炎	10.3	脳血管疾患	10.3	老 衰	3.7

厚生労働省 人口動態統計(21年度)

(注) 百分率は、それぞれの都道府県別死亡数を100とした率

(注) 「心疾患」 ← 「心疾患高血圧性を除く」

② 医療を担う人材の育成・派遣機能の充実

広島病院は、臨床研修指定病院として、医師等の教育・人材育成を行い、また、県内外の大学や育成機関の要請に基づき、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士などの実習教育も積極的に受け入れ、将来の医療を担う幅広い人材の教育・育成に貢献しています。

これらの教育・育成機能を引き続き担うことに加え、医師の地域派遣機能を強化する目的で創設した「後期研修医ローテーションコース」の充実や認定看護師の養成など人材の育成に取り組んでいます。また、地域医療に貢献できる「総合医」を養成するため、「総合診療科」の機能を強化し、大学と連携し人材の養成を図ります。

また、県内の医療機関では、医師を始めとする医療人材の不足が深刻化しており、広島病院は広域行政を担う県直営の基幹病院として、こうした人材の確保及び派遣機能の充実が求められています。このため、

- ① 本県の高度医療を担う人材の育成機能
- ② 地域医療を担う人材の育成・派遣機能の強化を進めます。

(2) 県立安芸津病院

① 地域と連携し、密着した医療の提供

安芸津病院は、旧安芸津町、竹原市、大崎上島町などを医療圏とした地域の中核的病院としての役割を担っており、今後も引き続き、幅広い疾患に対応する総合医機能を発揮しつつ、安芸津病院の有する専門性、入院診療機能、検査機能等を活用して、地域医療に貢献していきます。

また、近年の全国的な医師不足に伴って安芸津病院でも勤務医が年々減少していることから、呉地区や西条地区の規模の大きな病院や安芸津病院近隣の診療所等との役割分担により、地域が一体となった医療提供体制（相互補完体制）の構築を目指します。

更に、この地域は高齢化と人口減少が進んでいることから、引き続き、高齢の患者が在宅での療養生活が可能となるよう在宅医療支援を行っていくほか、広報活動や市町保健事業への協力等を通じて、医療・健康情報の発信基地としての機能を発揮していきます。

② 地域医療を担う人材の育成

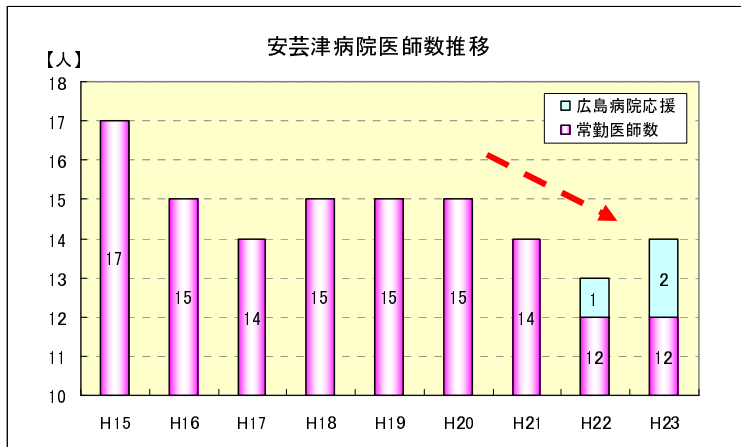
安芸津病院は、これまで県内の大学等の要請に基づき、看護師や理学療法士、薬剤師の実習教育を積極的に受け入れ、将来の医療を担う幅広い人材の教育・育成に貢献してきました。

引き続き、医療を担う人材の教育・育成機能を担っていくとともに、更に、初期臨床研修医、後期臨床研修医の地域医療の実践の場として、医師の育成にも貢献していきます。

③ 小児医療・2次救急医療の維持

安芸津病院は、医療圏内に小児科等の専門科外来機能や、二次救急医療に対応できる医療機関が不足していることから、県立病院としてこれらの機能を維持し、運営していくことが求められています。しかしながら、特に医師確保が困難な小児科機能については、現職医師に過度の負担を強いる恐れがあるため、地域の理解と協力を得ながら、県立病院内での協力体制の下、可能な範囲で維持・運営していきます。

○安芸津病院の医師数推移



診療科	年度									
	15 3月末 現在	16 3月末 現在	17 3月末 現在	18 3月末 現在	19 3月末 現在	20 3月末 現在	21 3月末 現在	22 3月末 現在	23 4月 現在	
循環器内科	2	2	2	2	2	2	2	1	1 (1)	
消化器内科	3	3	3	3	3	3	3	3	4	
一般内科	4	3	2	4	4	4	4	3	2	
小児科	2	2	2	2	2	2	2	1 (1)	1 (1)	
外科	3	3	3	2	2	2	2	2	2	
整形外科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
産婦人科										
眼科										
耳鼻いんこう科	1									
リハビリテーション科										
放射線科										
臨床検査科										
計	17	15	14	15	15	15	14	12 (1)	12 (2)	

※表中の()は、広島病院からの応援医師を示す。